

## 語彙性判断課題を例に

### ■ 課題

- ・ 提示される語彙項目（単語）が、実在するか・しないかを判断
- ・ 判断するまでの時間を測る

### ■ 使用するパッケージ

## 反応時間の分析

- ・ 目的変数は、反応時間 (RT)
  - ・ 反応時間の分布は、例えばを想定する
- ・ 説明変数は、影響を与えられ（調べたい）要因
  - ・ 例えば
    - ・ 実在するか・しないか (Real)
    - ・ 複雑か・単純か (Simpl)
    - ・ 判断の正誤 (CR)
    - ・ 参加者が、母語話者か学習者か (Lang)

## 正答率の分析

- ・ 目的変数は、正誤判断 (CR)
  - ・ 正誤判断の分布は、を想定する（ロジスティック回帰）
- ・ 説明変数は、影響を与えられ（調べたい）要因
  - ・ 例えば
    - ・ 実在するか・しないか (Real)
    - ・ 複雑か・単純か (Simpl)
    - ・ 参加者が、母語話者か学習者か (Lang)

## 反応時間の変換

- ・ Lo and Sally (2015) To transform or not to transform: using generalized linear mixed models to analyse reaction time data

<https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fpsyg.2015.01171/full>

the Gamma and Inverse Gaussian are examples of distributions that provide a plausible description of processes reflected in RT

- ・ Balota et al. (2013) の指摘：反応時間の生データを使うことの問題点
- ・ Spelman and McGann (2013) の指摘：平均値を使うことの問題点

## 参考

## ■ 反応時間の分布と変換

<https://lindeloev.github.io/shiny-rt/>